

令和5年度 施策評価シート

施策の大綱	1. 快適さを支える生活基盤の向上	評価担当者
基本施策	(9) 自然との共生	産業環境部長 富田 真左哉
目指す姿	豊かな自然の恵みが良好に保たれ、次世代に受け継がれています	
関連する分野別計画	第2次亀山市環境基本計画	

■SDGs

基本施策に関連するSDGsのゴール	     
SDGs推進の考察	市民参加のイベントを鈴鹿川等源流の森林づくり協議会と連携し開催するほか、生物多様性保全に係る啓発など、市民とのパートナーシップにより施策の推進を図ることができた。また、多様な主体による生物多様性保全を促進する制度を新設したほか、伐捨間伐による森林整備を実施することで、森林の公益的機能(二酸化炭素吸収による地球温暖化防止等)の維持増進が図られ、気候変動への対策、森林の持つ多面的機能の維持・発揮が図られ陸の豊かさの保護に寄与できた。さらに今後も、鈴鹿川等の源流地域や田園の自然環境及び農林地の多面的機能の維持・保全により、施策の推進を図る必要がある。

■関連する主な事業

(単位:千円)

施策の方向	事業名	上段:予算額	実績・成果等
		下段:決算額	
①	みえ森と緑の県民税市町交付金事業	4,317	市民参加のイベント開催により、豊かな自然・森林との関係が身近となる機会を創出し、自然や森林と共生する意識の醸成、森林の持つ多面的機能への理解向上を図ることができた。
		4,258	
②	森林環境創造就業事業	17,150	伐捨間伐を実施することで、森林の公益的機能(水源かん養、土砂災害防止、二酸化炭素吸収による地球温暖化防止等)の維持増進が図られた。
		17,042	
②	森林経営管理事業	55,582	集積計画の同意取得面積と間伐面積において、成果目標を大幅に上回る成果を得ることができ、森林の持つ多面的機能の維持・発揮に寄与することができた。
		55,197	
②	中山間地域等直接支払交付金事業	12,838	耕作条件の不利な中山間地域において交付金の交付により、協定書に基づき耕作放棄地の防止や農地の持つ多面的機能の確保を図り、農地の保全に大きく寄与することができた。
		12,824	
②	多面的機能発揮促進事業	14,509	補助金の交付により農地周辺の草刈、農道の簡易補修等の取組組織の活動を支援することで、農地が保全され農業・農村の多面的機能の維持・発揮と農道などの施設保全が実施された。
		14,508	
②	田園環境保全事業	1,588	成果目標の達成はできなかったが、継続して取組む農業者の取組面積は拡大しており、田園景観の向上や耕作放棄地の発生防止につながった。また、市フェイスブックやHPへ風景を掲載するなど亀山市を広くPRすることができた。
		1,588	
②	市単土地改良事業	41,504	農業用施設の改良支援を1件行った。農地保全のため、地域が実施する農業用施設整備工事の支援を37件行うことができたことで農業用施設の延命化が図られた。
		32,859	
②	森林環境整備基金積立金	12,415	令和5年度に譲与された森林環境譲与税収入、森林経営管理事業費の差額及びふるさと納税寄附金を積み立て、次年度以降の財源の確保を行うことができた。
		12,348	
④	里山公園管理費	5,520	日常的な運営やイベント、出前トークにより、園内の自然を利用し、自然と親しむ場と機会を提供した。一方、施設が老朽化しているが、予算不足により更新が行えていない箇所がある。
		5,427	
④	森林公園管理費	3,750	森林公園「やまびこ」園内を整備し、安心して訪れていただける環境づくりに努め、地元保育園が森林教育の場として、また、みえ森と緑の県民税等の森林に関わるイベントで積極的に利用された。
		3,325	

太字:主要事業

■成果指標

指標			現状値		実績値				目標値
					R4	R5	R6	R7	
1	鈴鹿川等源流の森林づくり協議会による取り組みへの参加者数	人	199	R2	190	257			300
2	森林整備面積（累計）	ha	1,646	R3	1,721.11	1,866.26			2,040
3	環境に関するイベント等への参加者数	人	4,460	R2	7,105	8,121			9,000
4									
5									
6									
7									
8									

■市民アンケート調査

項目			現状値 [R2]	1次 [R5]	2次 [R6]	市民アンケートの考察
1	自然環境が豊かである	重要度	1.21	1.29		
		満足度	1.12	1.06		
2	自然環境と調和した開発が適切に行われている	重要度	1.05	1.17		
		満足度	▲ 0.18	▲ 0.17		
3	森林・里山や農地が保全されている	重要度	1.07	1.16		
		満足度	▲ 0.01	▲ 0.07		
4	自然とふれあえる場所や機会が充実している	重要度	0.99	1.08		
		満足度	0.29	0.38		

■施策推進 [施策の方向]

施策の方向	施策推進に関する考察
① 鈴鹿川等源流域の保全・継承	鈴鹿川等源流の森林づくり協議会の取り組みのうち、野登山における環境保全の機運が向上しているため、これについて協議し、今後連携協働し進めることとなった。また、同協議会が実施する「サマーフォレスト」にて、市民団体と水生生物観察会を実施した。さらに、同協議会の事業である「自然保育の普及」についても研修等の実施を支援した。
② 森林・里山・農地の保全	市民団体等による農地・水路等の地域資源の保全活動、里山・竹林保全活動や森林整備を支援した。引き続き保全活動に対し支援する。
③ 多様な生態系の保全	多様な主体による生物多様性保全の取り組みを認定する「かめやま生物多様性共生区域認定制度」を、全国に先駆けて運用を開始し、令和6年3月に第1回目の認定を7区域に対して行った。また、亀山里山公園に係る取り組みが評価され、国の「自然共生サイト」に認定された。また、これらの取り組みについて多数の視察や講演依頼があり対応した。
④ 環境教育の推進	自然公園の利用促進と、園内における環境教育に係る情報の発信を行った。また、市民団体との連携してイベント実施時には積極的に出展しつつ、かめやま出前トークを利用した観察会や講座の利用促進とあわせ、より多くの方に対して環境教育の提供を行った。
⑤	
⑥	
⑦	

総合評価

鈴鹿川等源流域の保全・継承と環境教育の推進については、チェーンソー講座や三重県産材を使用した木とふれあう工作体験等を通じて、森林と木材を身近に感じ理解を深めることができた。また、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会において事業所など多様な主体と連携・協力し、亀山森林公園や鈴鹿川等源流地区をフィールドとして、市民が自然環境と触れ合う機会や学習する機会を提供できた。森林・里山・農地の保全については、国・県の補助金を活用し農地・森林・水路・農林道の地域資源の維持管理が協定団体や事業体で実施され、農地や森林が持つ多面的機能の維持・発揮や田園景観の向上等が図られた。多様な生態系の保全については、森林環境創造事業や森林経営管理事業により、適切な間伐が実施され、森林が持つ多面的機能の維持・発揮が図られた。また、従前より行っている市民団体と連携した希少種保全を推進するとともに、多様な主体により保全されている区域を認定する「かめやま生物多様性共生区域認定制度」を全国に先駆けて運用を開始し、第1回目として7区域を認定した。また、里山公園においては、園内環境の整備や環境教育の推進を積極的に行ってきた結果、国の「自然共生サイト」に認定された。一方で、みえ森と緑の県民税市町交付金事業、環境創造事業、田園環境保全事業については、目標が達成できなかったが、基本施策が目指す姿にますます近づいていると考えられる。	B まずまず進んだ
--	---------------------------------

今後の展開方針

鈴鹿川等源流域の保全・継承と環境教育の推進については、豊かな自然との共生を図るため、引き続き、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会や多様な主体と連携・協力し自然とふれあい、鈴鹿川等の源流の自然環境等を守り継承するための活動を行っていく。また、森林・里山・農地の保全については、農地や森林の保全と地域資源の維持管理を行い、農地や森林が有する多面的機能を維持・発揮していくため、国・県等の補助金制度の活用を地域に積極的に働きかける。さらに、多様な生態系の保全については、かめやま生物多様性共生区域認定区域の拡大・活用により、市域における生物多様性保全に努める。